

テサロニケの信徒への手紙二

テサロニケの信徒への手紙二は、圧力の下での忍耐を励まし、主の日についての不安を正し、秩序を乱す怠惰に向き合います。



解釈のもとづく再構成。配達の間は再構成です。送り手を描かず、著者問題にも結論を出していません。

年代・確度：推定される

パウロ自身の書簡と読む場合、紀元51〜52年頃

この手紙がパウロ伝承の中で後に書かれたものなら、その年代と場所はもはや成立事情を表しません。

場所・確度：推定される

パウロ自身による著作と読むなら、西暦51〜52年ごろ、おそらくコリントという位置づけは、第二次旅行中のテサロニケの信徒への手紙一に近い伝統的な再構成です。手紙自体は執筆都市を名指しません。

この手紙がパウロ伝承の中で後に書かれたものなら、その年代と場所はもはや成立事情を表しません。

前後の出来事

- 1 紀元50年頃 パウロは聖霊によってアジア州での宣教を禁じられる。トロアスでマケドニア人の幻を見て、「私たち」と記す区間が始まる。
フリギア→ガラテヤ地方→ミシア→アレクサンドリア・トロアス・本文で確かめられる
- 2 紀元50年頃 トロアス→サモトラケ→ネアポリスと航海し、内陸のフィリペへ。リディアが信じ、女奴隷が解放される。パウロたちは打たれて投獄され、看守が救われ、教会が生まれる。
サモトラケ→ネアポリス→フィリペ・本文で確かめられる
- 3 紀元50年頃 パウロはテサロニケで3回の安息日にわたり論じ、何人かが信じる。ヤソンが当局者の前へ引き出される。
アンフィポリス→アポロニア→テサロニケ・本文で確かめられる
- 4 紀元50年頃 高潔なベレアの人々は日々聖書を調べる。反対者が到着し、パウロは送り出される。
ベレア・本文で確かめられる
- 5 紀元50年頃 パウロがアテネのアレオパゴスで演説——知られざる神、悔い改め、復活を論じる。
アテネ・本文で確かめられる
- 6 紀元50〜52年頃 パウロはアクラとプリスキラに出会い、会堂で論じ、1年6か月滞在する。
コリント・本文で確かめられる
- 7 紀元51／52年頃 パウロはガリオンの法廷に引き出されるが、訴えは退けられる——年代上の基準点。
コリント・本文で確かめられる

本文から確かめられること

本文で確かめられる

テサロニケの信徒への手紙二は、圧力の下での忍耐を励まし、主の日についての不安を正し、秩序を乱す怠惰に向き合います。

受取人はテサロニケの教会であり、冒頭ではパウロ、シルワノ、テモテの名で呼びかけられます。

主な再構成

パウロ自身による著作と読むなら、西暦51〜52年ごろ、おそらくコリントという位置づけは、第二次旅行中のテサロニケの信徒への手紙一に近い伝統的な再構成です。手紙自体は執筆都市を名指しません。

この手紙がパウロ伝承の中で後に書かれたものなら、その年代と場所はもはや成立事情を表しません。

考える別の読み方

多くの研究者は、文体の違いと主の日の扱いを理由に、テサロニケの信徒への手紙二をパウロ伝承の中で後に書かれた作品と考えます。

10分で紹介するための流れ

1. テサロニケの信徒への手紙二は、圧力の下での忍耐を励まし、主の日についての不安を正し、秩序を乱す怠惰に向き合います。
2. 伝統的な見方では、テサロニケの信徒への手紙二はコリント滞在中にテサロニケの信徒への手紙一のすぐ後に続きますが、別の見方はより後に置きます。
3. パウロ自身による著作と読むなら、西暦51〜52年ごろ、おそらくコリントという位置づけは、第二次旅行中のテサロニケの信徒への手紙一に近い伝統的な再構成です。手紙自体は執筆都市を名指しません。
4. 多くの研究者は、文体の違いと主の日の扱いを理由に、テサロニケの信徒への手紙二をパウロ伝承の中で後に書かれた作品と考えます。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7〜28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

資料

Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997). — 第26章「テサロニケの信徒への手紙二」：「メッセージの全体的分析」
この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

Jerome Murphy-O'Connor, Paul: A Critical Life (Oxford University Press, 1996). — 第1章「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」

この箇所は、ここでの結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。

話し合いのための問い

なぜこの手紙は書かれたのですか。

確かなことは何で、どこで慎重な読み方が分かりますか。